



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100777		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・松伏		
所在地	埼玉県北葛飾郡松伏町築比地1437-1		
自己評価作成日	令和3年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区麹町1-5-4-712		
訪問調査日	令和3年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日午前午後の体操やレクリエーションに加えて誕生会やご入居者様のリクエストによる食事レクリエーション等を現在は施設内で行っている。また、薬を使用しないケアや活動で、その人らしく穏やかに過ごして頂ける様に職員も含め笑顔を大切にしている。コロナ禍で無ければ本来は地域のボランティアの方や近隣の小中学校などと活発な交流もあり地域密着の強みとも思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の中学校による職業体験としてのボランティア活動や小学校との交流など地域との関りに力を入れ取り組んでいたが、感染拡大防止の観点から交流を控えている状況である。制限の多い中でも事業所では、同法人の他施設とリモートによる運動会や日々の体操などを行ったり、担当者が中心となってレクリエーション活動の充実を図ったりして支援につなげている。また、関わりのあった小学校からは児童が作成した工作などが手紙とともに届けられるなど、その関係性は継続している。コロナ終息後や感染状況に応じて地域との交流の再開について検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、会議やカンファレンスなどで頻繁に話し合っている。	朝礼や毎月の職員会議のほかに委員会、カンファレンス、申し送りノートなど、様々な場面において理念について話し確認し合う時間を設けており、理解と周知に努め、理念に沿ったケアの実践にむけて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来であれば、社会福祉協議会、役場の方との交流も頻繁に行い、地域の学生の方なども交流できている。	フラダンス、日本舞踊、小学校の太鼓の会など様々なボランティアの定期的な訪問があったが、コロナ禍のため中止となっている。現在は、小学校から生徒が制作したマスクが届けられるなどの交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議他地域との繋がりを大切に密に連絡を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会、役場の方から介護施設への理解を頂いている。	家族、役所、地域包括、近隣のケアマネジャー、地域病院などに向けて、事業所の報告をする際に、テーマを設けて意見書を同封し、運営推進会議の再開にむけて準備を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場には週一回程でご挨拶に伺っている。	管理者は月2回は役所を訪問し、担当課と意見交換を行ったり、コロナ検査キット説明会や役所主催の研修へ参加するなど、協力体制を築くための取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1回、研修を年2回行い、協議し会議録作成をしている。	定期的に勉強会を実施しており、事前に職員にアンケートを実施し、身体拘束にかんする意識を確認してから課題を決めている。理解不足が見られる場合には、さらにわかりやすく説明するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回、研修を年1回委員会を行い、協議し会議録作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約の際にご説明し、同意を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を提示し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会が行えない為、電話やお手紙などで定期的な様子を報告し、ご意見を頂く機会を設けている。	コロナ禍において中止となっている家族会の再開にむけて、事業所の運営に関しての意見を手紙でもらうようにしている。面会中止のため、家族とは電話でのやり取りを行い、意見の把握と反映にむけて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、ブレインストーミング等でヒアリングし次回の会議で決議したり、個別で対応している。	職員会議の前に、職員にアンケートを実施し、個別にヒヤリングも行っている。管理者が意見をまとめて会議で検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、希望を聴取し考慮の上のシフト調整などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の勧めや、自身の研修成果を報告、またアンケート方式での回答を求め、集計しまとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員協議会(松伏町に限らず、近隣の会)に参加し交流、情報収集をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い、傾聴を粘り強く行い信頼関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会が出来ない為、ブログやお手紙(写真入り)や電話などで近況報告やお話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを繰り返し、支援の要を見出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当は元より、レクリエーションや傾聴などでコミュニケーションを図り、職員との距離を身近なものに感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、コロナウイルスの影響でご面会して頂けない為、電話や、お手紙が中心となっているが、コミュニケーションが取れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍のため面会制限中だが、今後ご本人様やご家族様のご希望があれば時期をみて支援していきたい。	知人、友人の面会や馴染みの場所への外出などは制限中であるが、季節の便りのやり取り支援や、電話の取次ぎ、家族契約の携帯電話での連絡など、可能な範囲での支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご入居者様の間に入り交流のきっかけ作りをしたり、円滑な人間関係を保てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去されたご家族様にもシーズングリーティングなどの送付をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく、生活できる場を提供できるように努力している。	入居時に利用者や家族の意向を確認し、アセスメントを作成している。意思疎通が困難な利用者には日々の様子や表情から意向を汲み取るようにして、介護計画見直し時には家族へ「ご意向記入表」を記入してもらい意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にご本人様やご家族様から生活歴などを伺いケアプランを作成し、カンファレンスも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランだけに固執せず、その人らしさを重視し、サービスを提供できる様に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(月一回)ミニカンファレンス(随時)を行い、常に変化に対応できるような体制を取っている。	アセスメント、モニタリング、サービス担当者会議の実施を基に、基本的には6か月毎での計画書の見直し・変更を行っている。また、生活記録には計画書の支援ナンバーの記入を行い、計画書に沿った支援が出来ているかの確認をしている。	コロナ禍で家族のサービス担当者会議の出席が難しくなっているが、コロナ終息の時期などを考慮して参加の促しができるように期待する。また、利用者に関しても参加できる工夫の配慮が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を記入、理解し、フロア一日誌も活用し、毎日の変化に対応できるよう情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のご要望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現況では難しくなっていますが、運営推進会議などで常に社会福祉協議会の方々の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様やご家族様の希望する医療機関で受診できるように支援している。	内科医、歯科医、訪問看護、薬剤師による月2回での訪問と毎週での歯科衛生士の訪問で、連携しながら利用者の健康管理に努めている。希望があれば担当医の変更は可能だが、現在では全利用者の担当医は訪問する内科医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所時に相談や、支援、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ご家族様、医療機関、ホームでの協議をし入院後も連絡を取らせていただき情報を連携共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについても、ご家族様と協議し担当医や訪問看護師と相談しながら進めている。	入居時の契約の際には利用者・家族へ重度化や看取りに関する説明をしている。また、心身状態の低下がみられた場合には、医療との連携を取りつつ、その都度、利用者・家族に説明を行い、今後の方針を話し合っ看取り介護に移行している。	事業所での対応が困難な医療処置が生じた場合や重度化によって事業所での生活が難しくなる場合があることは重要事項説明書にて説明を行っている。その具体的な内容はホームページに記載はされているが、契約時にも別途書面などでの配布や説明が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル活用と内容把握、消防署の指導、講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の協力や、ALSOK警備の協力で避難、確認をしている。	年2回程の避難訓練の実施や定期的な防災設備点検を実施している。避難訓練は消防署立ち合いのもとで行う場合もあり、コロナ以前では地域住民の参加もあった。また、同法人の警備会社による緊急連絡ボタンの設置もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修にて尊厳や、個人の尊重について話し合い、言葉かけ一つにしても熟慮し発言に気を付けるよう、職員間でも声掛けし合っている。	定期的に法人から利用者の尊厳を尊重する内容が含まれる個人情報保護に関するマニュアルが通達され、朝礼などで報告し全職員が確認を行うようにしている。また、毎月、ホーム長が参加する認知症ケア学会の内容も共有するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着衣に関して始まり、一日の行動や、意思を傾聴し、基本ご利用者様の自己決定に委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定が基本ですが、危険が伴う様な場面ではお声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容も出来る限りご自身にてして頂く他、ご希望のご入居者様には、メイクやマニキュアなども職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつまでも食べる事の楽しみを無くさない様に創意工夫もしているが、口腔体操や歌をお誘いしたり、片付け(特に食器拭き)などを良くお手伝いいただいている。	毎月でのイベント食の開催や利用者が調理に参加できる食事レクリエーションの実施を行っている。また、食事提供時には食堂にて音楽をかけ、食後の食器拭きなど利用者と一緒に行って、食に対する意欲の向上に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様のお好みの飲料を提供したり、視覚からも楽しめるような工夫をしている。また食事形態も個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診月二回、歯科衛生士週一回、食後には毎回、見守りや介助などで口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて安心できる様、介入している。	トイレ誘導や声掛けは基本、3時間ごとの支援となっているが排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりのリズムに合わせるよう調整をしている。それにより、リハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料の調整や、運動、服薬調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様の状態や、体調を鑑みて入浴場所や時間を変更し入浴剤などで気分を変えて頂いたり工夫している。	入浴実施表を活用して基本、週2回程のペースで実施している。皮膚疾患などがある利用者は、プラス毎日のシャワー浴で補っている。また、拒否などがみられた場合には無理に誘導せず、利用者にあった時間や日にちに変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後にご入居者様の時間を確保し、休まれる時間を個々に決めて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の個々の状態を考え、様子観察をさせて頂き、お薬の効能、副作用についてもレクチャー、協議して全員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の、趣向に合わせてお手伝いや、好きな余暇時間を過ごしていただく時間も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為現在は出来ませんが、近所のコンビニエンスストアに同行支援している。	コロナウイルス感染防止の観点から買物外出などの実施は控えている状況となっている。そのため、隣接する施設敷地オーナー宅の広い庭を借りて気分転換の散歩や外気浴の実施を行っている。	コロナウイルスの終息や感染状況などの様子を見計らって外出イベントなどの企画を予定することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様の希望に合わせ買い物をしたりご家族様に購入商品の範囲や金額を確認させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、お手紙が届いた際には読み上げさせて頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾品や、時期的なものが感じられるような雰囲気づくりを心掛けている。	レクリエーション活動で利用者が作った作品を共有スペースのフロアや廊下に飾っている。フロアではテレビ前にソファを置いて、ゆっくりとくつろげるように配慮している。また、換気は1日2回行っており、ウイルス除去ができる加湿器の設置もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用テーブルの他、ソファなども設置し自由に空間を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の枕や、好きな絵、お気に入りの物を居室内へお持ちいただいている。	希望があれば、居室スペースに入るものならばタンスなどの家具を持参してもらい、布団を使用する利用者には床マットの設置をしている。なるべく自宅で生活していた環境に近づけるよう配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには表示をして明確にしている。		

目標達成計画

作成日: 令和 3年 12月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26/49	コロナ禍の為イベントやレクリエーションが限られ外部との交流やボランティアの方の入館もできていない。	ご家族の面会も一部緩和されてきている為、このまま感染症を持ち込まず、通常の運営が出来るまで現状維持を続ける。	イベント開催や、屋外(現在は施設敷地内に留まる)での外気浴を含めたお花見などが出来るように企画立案を行っていく。感染症予防についての周知、確認を職員間でも行い感染者を出さない様に継続していく。	4ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。